

(1) 崩壊地①

溪岸の若干の凹地部分であるが、溪岸部分が広く崩壊している。崩壊面は著しく風化しており手で触ると容易に崩れる状態となっている。



写真 3.2 崩壊地①の状況

(2) 崩壊地②

尾根と尾根が張り出した間の若干の凹地部分（ただし、集水面積はほとんどなし）で、集材路上部から崩壊が発生している。集材路が崩壊地中央部を横断する形となっており、集材路下部も崩壊しているが、下部は集材路からの流水が原因とみられる箇所も確認された（流水が崩壊を発生させたか、崩壊したから流れやすくなったかは不明）。崩壊面は風化が著しく、一部で粘土化している箇所も見られる。



写真 3.3 崩壊地②の全景



写真 3.4 崩壊地②集材路からの流水跡（左図）と粘土化した崩壊面（右図）

（3）崩壊地③

当該地区では比較的規模の大きな崩壊地となる。集材路を頭部とした崩壊で若干の集水地形であるが、崩壊は集材路の上部には波及していない。崩壊地表面は風化が進み手で容易に崩れる状況であるが、転石が多くみられる。



写真 3.5 崩壊地③の状況

（4）崩壊地④

崩壊地の発生している斜面は、明瞭な凹部が確認されない平行斜面ではあるが、上部作業道を起点とし下部集材路までの範囲に細長い崩壊が発生している。崩壊地下部（下部集材路）付近では崩壊幅は若干広がるものの、崩壊地上部は1～2m程度の幅で非常に細長い形状を呈している。上部作業道には、作業道の排水を促す横断溝が設置されているが、現状はすべてが埋没し表層から確認が困難な状態である。排水溝の側部から崩壊地に向かい流水の跡が見られ、流水跡直下より崩壊が発生している（直下はオーバーハングしており大きな礫が抜け出たような痕跡が見られる）ことから、作業道か